

増田幸子

専門は言語文化学。最近では、メディアコミュニケーションとも称しています。学生時代は美術部・漫画研究会など、ビジュアルな表現にかかわるクラブやサークルに所属していました。産社に就任以来、映像メディアの中のステレオタイプや他者表象について研究していますが、これは言語文化学から派生した異文化間コミュニケーションや異文化理解の領域に関連するテーマだと考えています。趣味は映画や絵画の鑑賞。

1. 専門演習の目標

1. 研究テーマに必要な文献を自ら選択したり、データを収集したりできる。
2. 参考文献やデータをクリティカルに読んだり、分析したりできる。
3. 自分たちで分析・考察した結果を、第3者に理解できるように、レジュメにまとめて発表したり、適切なレポートの形で文章化したりできる。

以上のゼミの基本的な学びのスキルを習得するとともに、ゼミの研究テーマについての知識を深め、社会に対する多様な視点や洞察力を養うことを目標とします。

2. 専門演習で扱う課題と内容

メディア社会といわれる今日、私たちの日常生活においてメディアは欠かせないものであると同時に、私たちの「頭の中の」世界観や価値観に深く関わっています。

本ゼミでは、そのような認識のもと、ストーリー性のある映像テキスト（たとえば映画やドラマなど）を中心に、マスメディアの社会的文化的な機能について考えていきます。具体的には、テレビや映画の中の他者像やステレオタイプ・エスニシティ・ジェンダー・アイデンティティなどの問題に取り組みます。ゼミの構成メンバーの関心にもよりますが、2011年度は、テレビドラマや日本映画に焦点を当て、「グローバル」と「ナショナル」な側面について考えたり、エンターテインメント性の強いテキストが生み出す集団（私たち・彼ら）の「記憶」と「忘却」について議論したり、あるいはそれらが提示するストーリーとは別の「物語」を読み解いたりすることができればと考えています。

3. 授業の進め方・内容

3回生前期は、カルチュラル・スタディーズなどの文献を講読し、それをまとめた個人発表を行いながら、ゼミの基礎知識や研究方法を学びます。後期には、グループ毎にサブ・テーマを設定し、映像テキストを分析します。その成果はグループ発表やゼミ論集の作成としてまとめます。4回生時には、3回生時の学びをもとに個人

（グループも可）で卒業研究のテーマを設定し、卒業論文の執筆を目指します。

4. 必要とする知識

- マスメディアに関する基礎的な知識
- 世界の映画史についての大まかな知識
- 世界や日本に関する歴史や現代社会についての基本的な知識

5. 関連する分野・科目・知識

- マスメディア（特に、放送や映画など）に関する科目
- メディアリテラシーや映像メディアの分析に関する科目
- 異文化間コミュニケーションや多文化社会論など文化に関する科目

6. テキスト・参考書・機材（受講生が標準的に持つもの）

特定のテキストは使用しませんが、ゼミの構成メンバーが決定してから指定することがあります。たとえば、本橋哲也『映画で入門カルチュラル・スタディーズ』大修館書店、2006など。ゼミ開講時に詳細な参考文献一覧を配布し、その他はゼミの進行に応じて指示していきます。受講生の語学力によっては、外国語の文献もとりあげる予定です。

7. 独自に付加する選考方法

簡単な個人面接を行う予定です。

8. 受講生に望むこと

グループ作業が中心になるので、グループで学ぶことを楽しめる人でないと続けることが難しいでしょう。受け身でなく自主的に学ぶ姿勢が求められるとともに、他人の意見が聞けない人・無責任な人は困ります。遅刻・早退などには厳しく対処します。字幕なしで外国映画が理解できる人（英語の他に、中国語や韓国語など）は大歓迎です。